

「中小企業の景況感に関する調査」結果概要

【略称：東商けいきょう】

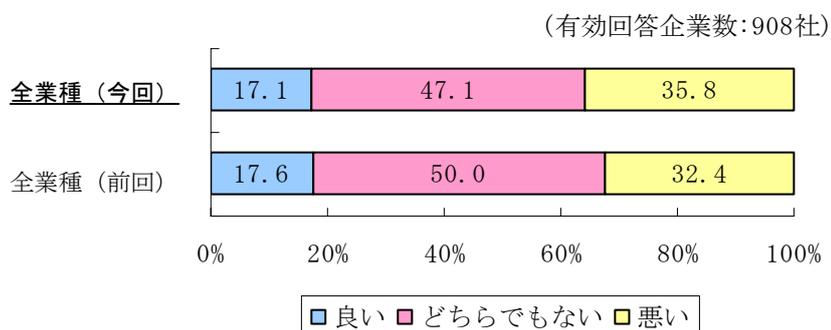
平成 18 年 7～9 月期

東商では標記調査を下記の通り実施した。主な内容は以下の通り。なお、文中における「今回調査」は平成 18 年 7～9 月期調査を、「前回調査」は平成 18 年 4～6 月期調査を示している。

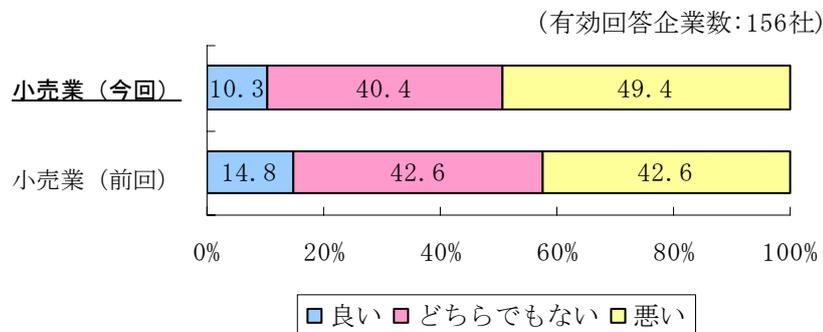
- ・調査期間：平成 18 年 8 月 31 日～9 月 6 日
- ・調査対象：東京 23 区内の中小企業 2273 社
- ・調査方法：FAX および経営指導員による聴き取り
- ・回答数：939 社（回答率 41.3%）

1. 今回調査による業況（自社）水準は前回調査と比べて 3.4 ポイント悪化しているなど、依然として厳しい状況にある。
2. 特に小売業では、現在の業況水準を「悪い」と回答した企業が半数近く（49.4%）に達していることに加えて、現在の売上を「厳しい」と回答した企業が約 6 割（58.1%）を占めている。

【1. 今期の業況水準について】



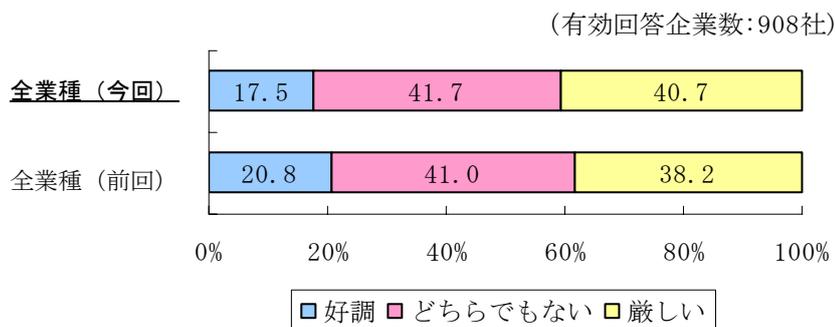
- 前回調査時と比べて、「悪い」と回答した企業が増えている（今回 35.8%、前回 32.4%）。
- 全業種では、「悪い」と回答した企業が 35.8%に達している一方、「良い」と回答した企業は 17.1%に止まっており、依然として中小企業の業況水準は厳しい状況にあることがうかがえる。



○業種別では、特に小売業において、現在の業況を「悪い」とする割合が顕著であり、前回調査に比べても悪化している（今回 49.4%、前回 42.6%）。

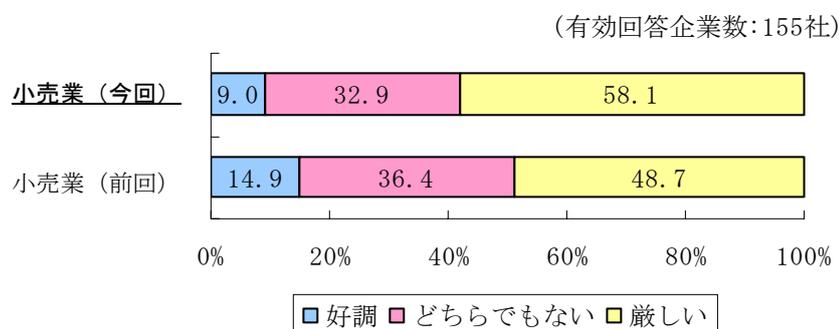
○小売業は「悪い」と回答している割合が全業種より 13.6 ポイント高く、製造業は 0.3 ポイント高い（小売業 49.4%、製造業 36.1%、全業種 35.8%）。一方、製造業と小売業以外の業種では「悪い」と回答している割合が全業種よりも低い（集計結果の 2 ページ、9 ページ参照）。

【2. 今期の売上について】



○全業種では「厳しい」と回答した企業が 40.7%に達している一方、「好調」と回答した企業は 17.5%に止まっている。

○前回調査時と比べて、「厳しい」と回答した企業が増えている（今回 40.7%、前回 38.2%）。



○業種別では、特に小売業において「厳しい」と回答した企業が約 6 割に達している（「厳しい」58.1%、「好調」9.0%）。

○他の業種はいずれも「厳しい」と回答した企業の割合が 4 割以下であるのに対し、小売業は 6 割近くに達している（集計結果の 3 ページ、11 ページ参照）。